

新型コロナウイルス感染症対策

2020 年度（前期）における講義などの実施にかかるガイドライン（暫定版）

新型コロナウイルスへの感染者は、世界各地に急激に拡がっており、喫緊の課題として積極的に感染拡大の防止に取り組まなければならない状況にあります。

3 月 19 日に公表された厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」により、社会・経済機能への影響を最小として今後もさらに感染拡大防止の効果を最大限にするという方針から、「1. クラスター（集団）の早期発見・早期対応」、「2. 患者の早期診断・重症者への集中治療の充実と医療提供体制の確保」、「3. 市民の行動変容」という 3 本柱の基本戦略を維持、必要に応じて強化をするよう方針の継続が提言されております。

これらのことを踏まえ、前期期間に当たる 4 月～9 月における本学の新型コロナウイルス対策ガイドライン（暫定版）を以下のとおり定めます。

1. 感染防止の方針 ※参考 文部科学省通知 堺市 HP 松江市 HP

短大の講義においては、「3 つの条件（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集近距離での会話や発話）が同時に重なる場」を避け、保健管理や環境衛生を良好に保つような取り組みを進め、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策を徹底する。発熱などの体調不良の学生には、状況に応じて公欠の配慮を行う。

学生が安全に修学を行い不利益が最小限になるよう持続可能な形で柔軟に感染対策を実施していく。

◇「3 つの条件が同時に重なる場」をつくらず、授業等を実施する

①換気の悪い密閉空間にしない

- ・講義中 30 分に 1 回の換気（窓および反対側扉の両方を 10 分以上開ける。談話室、図書館等を含む）

②多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮

- ・学生同士の座席がお互いに離れるようにする（座席は 1 つおき以上になるよう指導する）

③近距離での会話や大声での発生をできるだけ控える

- ・マスクを着用する
- ・マスクを着用しない場合、教員は学生との距離を 2 メートル以上取れるよう意識する。また学生の不安にも配慮し、あらかじめ受講学生に断りをしてから講義を行う。
- ・ディスカッション形式の講義時には特に学生がマスクを着用しているかに注意する。マスクの着用がない場合は、別の方法を検討する。

◇発熱等の風邪の症状がみられるときは

咳や 37.5℃以上の発熱等の症状がある場合は、無理して通学や出勤をしないよう伝え、マスク着用を促し、事前連絡をしたうえで医療機関への受診を勧める。

◇学生または教職員の感染が判明した場合は

学生または教職員に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、公休・公欠の措置を行う。

それと共に都道府県等の衛生主管部局と当該感染者の症状の有無、学校内における活動の様態、接触者の多寡、地域における感染拡大状況、感染経路の明否等を確認しつつ、関係機関と十分に相談の上、臨時休業についても検討する。

※学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）（抄）

（臨時休業）

第 20 条 学校の設置者は、感染の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

2. 講義等の実施について

2020 年度は学年暦の変更はしない。

感染防止の方針を満たすため、弾力的な教育方法を実施する。

○感染防止の方針を満たす講義等の場合、通常のスケジュールで実施する。

○感染防止の方針を満たすことが困難な講義や演習、実習については、時期の延期、規模の縮小や方法の変更を検討する。その際、影響を受ける学生と影響を受けない学生の差が生じないように十分配慮するとともに、学生に対して十分な説明を行う。

3. 講義に参加するに当たって

4 月以降、短大での講義参加に際しては、以下のことを十分留意してください。

◇学生の皆様

(1) 新型コロナウイルスのパンデミック状況が落ち着くまで、感染症に対する意識を高めると共に、毎日、体温測定と手洗い・含嗽（がんそう＝うがい）の励行、咳エチケットの徹底、人込みは避け、不要不急の外出を控えるよう感染拡大防止策を講じるようにしてください。

(2) 入出室時はアルコールによる手の消毒を行い、利用した机や電子黒板等機材は次の人の利用のため、アルコール清拭を心がけてください。

(3) 発症した学生には、学校保健安全法に基づき治癒するまで出席停止の措置を取ります。授業・試験を欠席する学生には、不利益が生じないよう配慮しますので、体調不良時には心配せず、教職員に相談してください。

◇教職員の皆様

(1) 新型コロナウイルスのパンデミック状況が落ち着くまで、感染症に対する意識を高めると共に、毎日、体温測定と手洗い・含嗽の励行、咳エチケットの徹底、人込みは避け、不要不急の外出を控えるよう感染拡大防止策を講じるようにしてください。

(2) 学科毎に適切な情報を取得し、感染症に対する意識を高めてください。非常勤教職員への情報の周知もお願いいたします。また新たに情報を受け取った場合は、保健委員に情報を共有するとともに、共有フォルダに情報集約し、全教職員で情報共有できるようにしてください。

※共有フォルダパス（フォルダやファイルを作成する場合、情報提供者氏名、情報の更新日時を記載すること）

¥¥192.168.11.8¥all¥学内組織¥11_12_保健委員会¥【重要！】新型コロナウイルス関連資料¥新型コロナウイルス関連情報

(3) 講義実施時は、感染防止の方針を参考に、各教室のアルコールの設置の確認、入出者のアルコール消毒励行、利用した机や電子黒板等機材および机、ドアノブ等のアルコール消毒、咳エチケット及びマスクの着用励行などを心がけてください。

※持続可能な対策のために、資源（マスク、アルコールなど）の不足時の対応は、経済産業省からの情報を基に検討し、随時、情報更新いたします。

※文部科学省、厚生労働省等からの通知等

・「令和 2 年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（元文科高第 1259 号令和 2 年 3 月 24 日）

・「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」（事務連絡令和 2 年 2 月 28 日）

新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。

石けんやハンドソープを使った
丁寧な手洗いを行ってください。



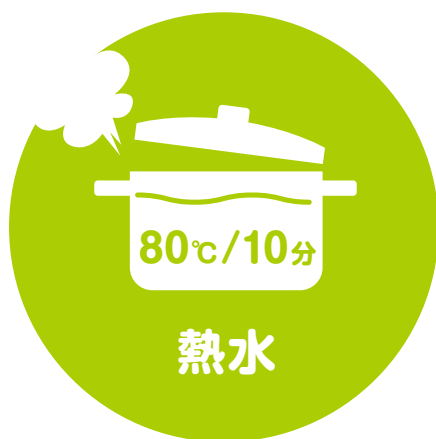
手洗いを丁寧に行うことで、
十分にウイルスを除去できます。
さらにアルコール消毒液を
使用する必要はありません。

手洗い		残存ウイルス
手洗いなし		約 100 万個
石けんや ハンドソープで 10 秒もみ洗い後 流水で 15 秒すすぐ	1 回	約 0.001% (数十個)
	2 回 繰り返す	約 0.0001% (数個)

(森功次他：感染症学雑誌、80:496-500,2006 から作成)

食器・手すり・ドアノブなど身近な物の消毒には、
アルコールよりも、熱水や塩素系漂白剤が有効です。

(新型コロナウイルスだけでなく、ノロウイルスなどにも有効です)



食器や箸などは、80℃の熱水に
10分間さらすと消毒ができます。

火傷に注意してください。



濃度 0.05% に薄めた上で、
拭くと消毒ができます。

ハイター、ブリーチなど。
裏面に作り方を表示しています。

【注意】

- ・家事用手袋を着用して行ってください。
- ・金属は腐食することがあります。
- ・換気をしてください。
- ・他の薬品と混ぜないでください。

参考

0.05% 以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方



以下は、次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする製品の例です。
商品によって濃度が異なりますので、以下を参考に薄めてください。

メーカー (五十音順)	商品名	作り方の例
花王	ハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯)
	キッチンハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ 1 杯)
カネヨ石鹼	カネヨブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
	カネヨキッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
ミツエイ	ブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)
	キッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ 1/2 杯)

【注意】

- 使用にあたっては、商品パッケージや HP の説明をご確認ください。
- 上記のほかにも、次亜塩素酸ナトリウムを成分とする商品は多数あります。
表に無い場合、商品パッケージや HP の説明にしたがってご使用ください。

咳エチケットで感染拡大防止

咳やくしゃみの飛沫により感染症を他人に感染させないために

咳エチケット



ティッシュ・ハンカチなどで
口や鼻を覆う



上着の内側や袖で覆う



マスクを着用する

現在、マスク不足で心配されているかと思います。

お手元にマスクがなくて、マスクを自作する場合には、次のことにお気をつけください。

自作マスクで
気をつけること

口をしっかりと塞ぐことで、
飛沫（くしゃみなどの飛び散り）
を防ぐ効果があります。



口と鼻を
しっかりと覆う



できるだけ
密着させる



毎日手洗いし
清潔にする



マスクについて

マスクの表面は、汚れていると考え、触らないようにしましょう。また触ってしまった場合には手洗いをしましょう。感染している人からの飛沫を防ぐ効果は期待できないので、過信しないようにしてください。マスクは、症状等ある方が飛沫によって他人に感染させないために有効です。一方で、他人からの飛沫を防ぐ予防効果は相当混み合っていない限り、あまり認められていません。

YouTube
布マスクの
手洗い動画

